

(仮称)中野市美術館建設基本計画

1. 現状と課題

本市の第2期中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、郷土が輩出した音楽・美術をはじめ多方面にわたる文化人たちの偉業を後世に継承するとともに、市民の誰もが文化芸術活動に参加できる環境づくりを推進することとしています。

しかしながら、令和6年度の市民満足度調査では、「文化芸術・スポーツの振興」が重要・やや重要とする人の割合は53.9%と高い一方で、「音楽や美術などの文化芸術活動を楽しむ環境が整っている」という設問で満足・やや満足と答えた方が19.0%、「文化財の保護や保存、活用が適切に行われている」という設問で満足・やや満足と答えた方が15.5%という結果になっています。

現在、美術品の展示は、中野陣屋・県庁記念館、一本木公園展示館展示室、信州中野銅石版画ミュージアム展示室、市立博物館展示室、市民会館ソソラホール展示スペース、市役所本庁舎内空きスペースを活用して実施していますが、市立博物館展示室及び市役所本庁舎内空きスペースを除く場所については一般への貸出しも行っている施設であるため、展示期間及び展示点数に制約が生じている状況であります。

2. 必要性和目的

市民のニーズに対応しつつ、郷土の作家や本市ゆかりの作家の作品を中心に展示・紹介し、地域への愛着を深めていただくとともに、美術、音楽、スポーツ等、多彩な分野で活躍する本市出身の著名人に関する資料を展示・紹介し、市の新たな魅力を発信することは、本市の文化芸術の振興に必要であると考えます。

また、美術館を建設することにより、展示品を通じて文化芸術に触れていただくだけでなく、来館者の交流の場となり、賑わいの創出、交流・関係人口の創出にもつながる施設とすることを目的としております。

3. コンセプト

① 次世代を担う子どもから大人までが気軽に訪れ、楽しみながら文化芸術と触れ合い、学び、感性を養える場の提供

アクセス面、周辺施設との回遊性、自然環境等を含め、誰もが気軽に訪れやすい場所で、文化芸術と触れ合い感性を養う場、新たなコミュニケーションの場を提供する。

② 郷土作家の作品を通じ地域の魅力を再発見

郷土の作家や本市ゆかりの作家の作品を中心に展示・紹介し、地域への愛着を深め、本市の魅力を再発見する。

例：菊池契月、町田曲江、三沢忠氏、西澤今朝夷、菊池一雄、礪珉展市長賞作品など
(他の美術館等から借用した作品展示も行う予定)

③ 本市出身の著名人に係るブースを設け市の新たな魅力を発信

美術、音楽、スポーツ等、多彩な分野で活躍する本市出身の著名人に関する資料を展示・紹介し、市の新たな魅力を発信する。

④ 「くつろぎ」「交流」「表現」の空間の創出

カフェ、ラウンジ、ワークショップ、ミニコンサートスペースを設け、来館者にくつろぎの場、交流の場、表現の場を提供する。

4. 整備規模

① コンセプトを実現しうる施設として必要なスペースを有すること

- ・展示スペース
- ・エントランス兼物販スペース
- ・カフェ兼ラウンジ・ワークショップ・ミニコンサートスペース
- ・トイレ等

② 過度な財政負担が生じないようできる限りコンパクトな規模であること

建設予定面積 約 450 m² (平屋建)

5. 建設場所

以下の観点から、建設場所を「市立図書館」敷地とする。

① 整備規模を確保できる市有地であること

財政負担軽減のため市有地、かつ必要な整備規模を確保できる場所

② アクセスの良い場所であること

市街地で立ち寄りやすく、公共交通機関が近くにある場所

③ 他の公共施設、民間施設との連携が図れること

周辺施設と回遊性が期待でき、賑わいの創出、相乗効果が期待できる場所



6. 事業費

令和7年度：調査・設計 4,200万円

令和8年度：建設工事・監理 4億5,000万円

<財源>

- ・新しい地方経済・生活環境創生交付金（1/2）
- ・一般補助施設整備等事業債（90%）

7. 運営

企画・運営は市が直営で行う。

また、施設や外構等の管理については、併設する市立図書館と連携していく。

なお、将来的には指定管理者による管理・運営を検討していく。

8. 今後のスケジュール

令和7年10月	調査・設計業務委託発注
令和8年4月	建設工事契約
令和9年3月	しゅん工